

広島グリーンアリーナの有効利用に係る意見交換会について

1 要 旨

- ・ 広島県立総合体育館（以下「体育館」という。）の大アリーナ（以下「広島グリーンアリーナ」という。）の有効利用について、有識者等による意見交換会を開催する。
- ・ 広島グリーンアリーナの有効利用について、意見交換会での意見を踏まえ、県としてとりまとめた方針（案）についてパブリックコメントを実施し、県の方針を決定する。

2 現 状

- ・ 体育館は、大規模スポーツ大会の開催や国際交流の促進、県民スポーツ活動の拠点とすることを目的に設置した施設である。
- ・ また、広島グリーンアリーナは、最大収容人数が約1万人と、中四国地方最大規模のアリーナ施設であり、交通の利便性が高く、周辺には宿泊施設も充実していることから、全国規模のスポーツ大会やコンサート等の大規模イベントを開催できるポテンシャルを有している。
- ・ 広島グリーンアリーナは、Bリーグ、Bプレミアの2026-27シーズンから5シーズン程度を目安に、広島ドラゴンフライズがホームアリーナとして利用する予定である。

3 目 的

- ・ 令和8年度から5年程度を目安に広島ドラゴンフライズがホームアリーナとして利用するため、現在の利用状況に一定の影響が生じると考えられる。については、スポーツやエンターテインメント等の観点を踏まえ、改めて、広島グリーンアリーナの有効利用について検討するため、有識者による意見交換会を開催する。
- ・ なお、広島グリーンアリーナの利用調整方法は別紙1のとおりであり、令和6年度の利用状況は別紙2のとおりである。

4 概要（予定）

(1) 名称

広島グリーンアリーナの有効利用に係る意見交換会

(2) メンバー

別紙3のとおり。

(3) 開催時期及び意見交換のための説明内容等

計2回開催し、開催時期及び意見交換のための説明内容等は次表のとおりとする。

回 次	時 期	場 所	意見交換のための説明内容
第1回	令和7年5月	広島市内	・ 広島グリーンアリーナの利用調整方法 ・ 広島グリーンアリーナの利用状況
第2回	令和7年6月	広島市内	・ 利用者（スポーツ・エンターテインメント）のニーズ等

(4) その他

メディアに公開で実施する。

5 スケジュール（予定）

4月18日（金）	広島県議会総務委員会説明
5月～6月	意見交換会の開催
7月	広島県議会総務委員会説明（方針（案））
7月下旬	パブリックコメントの実施（～8月下旬）
9月下旬	広島県議会総務委員会説明（方針）

広島県立総合体育館指定管理者業務の仕様書（抜粋）

第2 利用受付等に関する業務の基準

1 利用調整等

(1) 早期内定

ア 大規模スポーツ大会等（令和7年度以降）は、会場の早期確保の必要があることから、大アリーナをメイン会場として専用利用する場合に限り、早期内定を行うこと。

イ 早期内定については、あらかじめ県の承認を得て定める「早期内定基準」を策定し、これに基づき実施すること。なお、毎年度継続的に行われているアマチュアスポーツ大会（専用利用）については、事前に関係団体と調整すること。

《現行の早期内定基準》

基本的要件	本県開催・招致に当たっては、1年以上前（原則として2年前を限度とする。）から会場の確保が必要であり、かつ、次のいずれの要件にも該当する大規模イベント等であること。 ① 本県開催について、当該団体の全国組織の理事会等において決定又は内定される見込みである。 ② 利用期日及び利用施設等の事業計画（概要）ができている。 ③ 次の事情などから、当館以外の類似施設では、開催が困難である。 ・大会規模及びイベント等の内容（特に、施設設備の関係） ・分科会場、宿泊施設及び交通の利便性の確保
規模等要件	次のいずれかに該当する大規模イベント等であること。 ① 規模が全国規模以上であり、かつ、参加人数及び施設利用計画（利用日数・施設）が、次のように予定されているものであること。 ・参加人数（観客数を含む。）が、概ね延べ3,000人以上見込まれている。 ・利用期間が、準備・撤去を含めて3日間以上である。 ・利用施設が大アリーナを含めて2施設以上（会議室を含む。）である。 ② 県又は県が構成員となっている実行委員会等が主催・共催する事業で、全県規模以上の大規模イベント等であること。 ③ プロスポーツ、ショー、コンサート等興行的なものについては、1公演の観客数が概ね6,000人以上が見込まれるとともに、利用日数が準備・撤去を含めて3日間以上であること。 ④ その他、広島県が特別に認めるものであること。

ウ 有料興行日数の制限

アマチュアスポーツの利用を確保するため、大アリーナ、小アリーナの開館日数に占める有料興行（コンサート、ショー等）日数の割合の上限は、原則、次表のとおりとする。

《開館日数に占める有料興行日数の割合》

大アリーナ	10 %
小アリーナ	2 %

※有料興行とは、「スポーツ以外に利用する場合において、入場料有料の場合」の利用区分をいう。

有料興行日数とは、有料興行の開催の日数をいう。（準備・撤去のための日数は除く。）

エ 広島ドラゴンフライズの利用調整

B. LEAGUE が2026-27シーズンからリーグを再編することを受けて、広島ドラゴンフライズに、暫定的に大アリーナをホームアリーナとして利用させる方針とした。

このため、対象シーズンのリーグ戦の日程調整を行う。

オ 早期内定は、あくまでも専用利用の予約決定であり、利用申込の受付期間到来後には、利用申込書を提出させ、利用許可を行うこと。

(2) 年間利用調整

ア 次年度の年間利用調整については、前年度の12月10日までに利用希望調査（早期内定した日を除く）を行い、利用調整後、1月末までに利用希望団体に内定を通知すること。

〔令和4年度の利用希望調査送付先：約100団体〕

イ 利用調整に当たっては、原則、次の大会等を優先し調整を行うこと。

① アマチュアスポーツの大規模大会

② 県又は公益団体が主催する大会、イベント

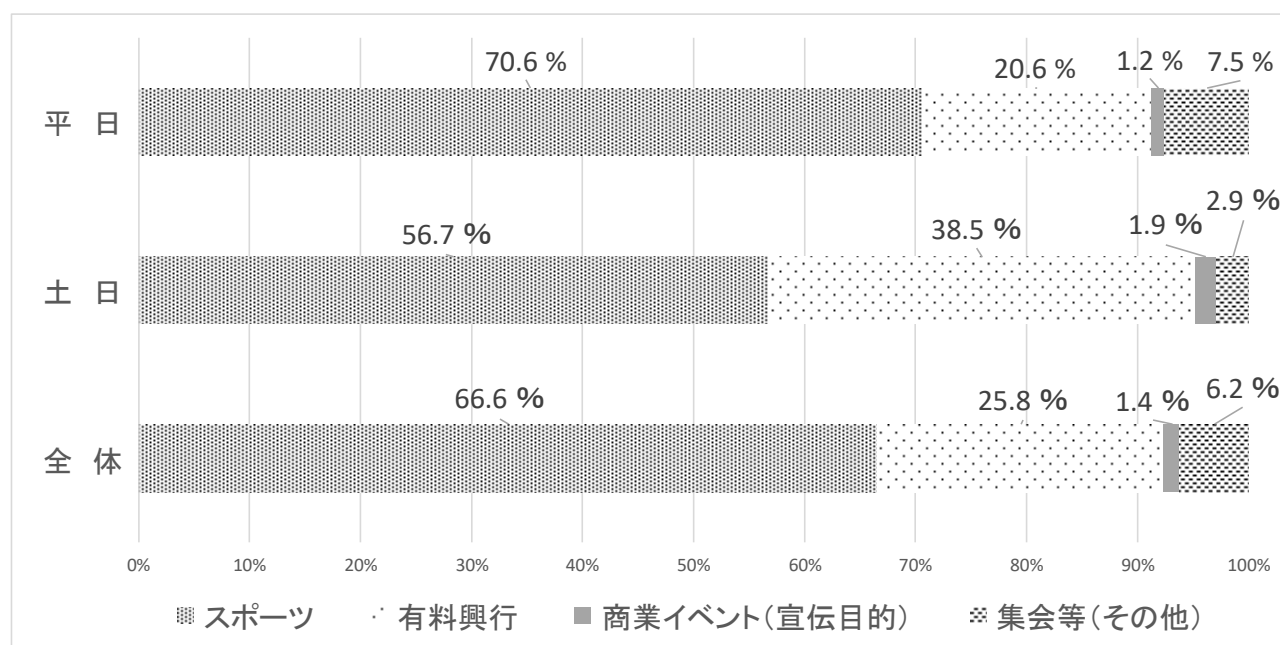
ウ 本内定は、あくまでも専用利用の予約決定であり、利用申込の受付期間到来後には、利用申込書を提出させ、利用許可を行うこと。

令和6年度 広島グリーンアリーナの利用状況

【令和6年度 広島グリーンアリーナの利用状況】

(単位：%)

区 分	スポーツ	有料興行	商業イベント (宣伝目的)	集会等 (その他)	合 計
平 日	70.6	20.6	1.2	7.5	100.0
土 日	56.7	38.5	1.9	2.9	100.0
全 体	66.6	25.8	1.4	6.2	100.0



(注) 利用日数は、開催日数に加え、準備・撤去の日数を含む。

構成比は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とならない。

【ポイント】

- ・ 全体では、有料興行（コンサート等）は約26%、商業イベント（就職説明会等）や集会等（原水爆禁止世界大会等）を含めると、スポーツ以外の利用は約33%となっている。
- ・ 土日では、有料興行は約39%、スポーツ以外は約43%となっている。
- ・ 広島ドラゴンフライズが、2026-27シーズン以降、5シーズンを目安に大アリーナを利用することとしている（開館日数の約10%程度）。

意見交換会メンバー

(敬称略)

区分	所属・職名等	氏名
有識者	福山市立大学都市経営学部 教授	渡邊 一成 (ワタベ カズナリ)
	広島工業大学工学部建築工学科 教授	福田 由美子 (フクダ ユミコ)
利用者 (スポーツ)	公益財団法人広島県スポーツ協会 常務理事	堂本 ひさ美 (ドウモト ヒサミ)
	広島県高等学校体育連盟 理事長	大信 寿洋 (オオノブ トシヒロ)
利用者 (エンターテインメント)	株式会社夢番地 執行役員	大山 高志 (オヤマ タカシ)
	広島エフエム(株) 9 ジラジDJ	大窪 シゲキ (オオクボ シゲキ)
経済団体・まちづくり	広島県中小企業家同友会 副代表理事	村井 由香 (ムライ ユカ)
	広島都心会議事務局長 (広島電鉄株式会社執行役員)	末松 辰義 (スエマツ タツヨシ)
大学生	安田女子大学 現代ビジネス学部公共経営学科4年	西川 百合香 (ニシカワ ユリカ)
	広島工業大学 工学部環境土木工学科3年次	山下 若菜 (ヤマタ ワカナ)